



つながり

調整監

杉野本 智幸



1学期末を迎え、各学校では確かな学力づくりやたくましい体づくり、そして豊かな心づくりの取組について確認する時期になりました。そして、子どもたちの成長や揺れ動く内面、その背景を理解し、学校や保護者、地域の方々が同じ方向性をもった働きかけについて、具体化されてきているところだと思います。

さて、5月初旬から7月初旬にかけて、教育事務所から管内の全小中学校（88校）を訪問させていただきました。校内体制を整えつつある多忙な時期に、また、活発に教育活動が展開される時期に、丁寧な準備と対応をしていただきありがとうございます。

校長先生の描く学校観や学校の使命、熱い教育信条、明確なビジョン、自校の教育課題を見据えた具体的な重点等を聞かせていただく中で、私自身、身が引き締まる思いでした。教頭先生の話からは、校長先生の経営方針を職員全体に浸透させるための手立てや学校が組織として有効に機能するための方策、それを支えるための居心地のよい職員室づくりへの配慮等が伝わってきました。どの学校でも「チーム」「つながり」「職員集団」「協働体制」「日々の取組」「組織」等を大切にされていることを、大いに勉強させていただきました。

ところで、平成24年5月15日に中央教育審議会の教員の資質能力向上特別部会から「教職生活の全体を通じた教員の総合的な向上方策について」の審議のまとめが出されました。その中では「これからの教員に求められる資質能力」を、

- (i) 教職に対する責任感、探求力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）、
- (ii) 専門職としての高度な知識・技能、
- (iii) 総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

と整理されています。

学校訪問で聞かせていただいた話と、ずいぶん重なるものがありました。他県では、職員構成において若手が大きな割合を占める状況が始まっています。近い将来、本県でも似たような状況が起こりそうです。OJT（職場研修）の重要度が高まっていく中で、相互に素直に学びが入っていくためには、意見が自由に言い合える、よいものは在職や経験の長短に関係なく進取していきける、困っていることが相談できる職場の雰囲気は、大切な基盤となっていきます。学級経営でも同じことが言えるのは、承知のことと思います。

学校訪問の際に、ある校長先生が「子どもは、教職員の背中を見て育つ。最大の教育環境は、教職員自身だ。」と語られました。素敵な学校経営や職員集団づくりにつながっていることが想像できました。

日曜日の早朝に、教育関係の講演会の様子を放送する民放のテレビ番組があります。1か月ほど前に、日本メンタルヘルス協会代表で心理カウンセラーの衛藤信之氏が登場しました。その中で、衛藤氏は、「一期一会とは、初めて出会った人に二度と会うことはないと思って出会い、そのために一生分のサービスを提供するというのではなく、本当の意味は、いつも出会っている人に今日で最後と思って出会えるかということ。」だと話しておられました。また、「あんな先輩になりたいな」と思ったとき人はまねる（学ぶ）のだそうです。このような同僚同士や子どもとのかかわりが、素敵な学校文化の醸成につながっていくのだろうと感じました。

今年度の学校訪問は、市町担当指導主事や総務グループの課長とスタッフも同行し、それぞれに学力向上策や校内研究、学校事務に係る問題や課題、事務グループ活動等について話し合うことができ、有意義な時間となりました。課長の提案による事務職員との話し合いの場は、初めての試みでしたが、現場で顔を合わせて話をすることのよさを実感していました。同行した私も同じ思いです。また、同行された市町教育委員会の方々的心配りから、各学校への支援にも尽力されていることを強く感じました。

今、合同庁舎横にある公用車用の車庫の入り口に立つと、頭上にツバメのつがいが、一生懸命子ツバメに餌を運んできています。たまに数羽の子ツバメが、顔を出しながら親を待っています。やがて自立して、飛び立っていく日を夢見ながら。

新学習指導要領の全面実施に当たって

～「学力向上」と「生きる力」～

今年度より中学校及び特別支援学校中等部の新学習指導要領が全面実施されました。ご承知のように、新しい教育基本法では「知・徳・体」のバランスのとれた人間形成が教育の目標の一番目に掲げられ、「生きる力」の理念も新指導要領に継承されています。今年4月下旬に行った島根県学力調査の結果も6月20日に発表され、「全体的に基礎的な知識は備わっているが、複数の資料を読み取って表現したり、理由を説明したりする応用問題などで正答率が低く課題が残った」「実生活に関連した問題にも弱さが目立つ」と分析しています。(詳しい分析結果、概要等は義務教育課HPに掲載)

学習意欲や学習習慣は学力の基盤です。ただ、何のために勉強するのかという目的も分からず、基礎的な知識が理解できないままでは

将来の目標をもって学び続け、自分の能力を伸ばしていくことは困難であろうと思います。児童生徒の主体的学習の確立と学習時間の確保は学力向上の最大の目標です。子どもたちに身に付けさせたい学力とは「どのような学力」なのかをしっかりと押さえて、各学校の実態に即した教育活動をしていく必要があります。これから各学校に返却される県学力調査の結果をしっかりと分析し、今後の取組に生かしてほしいと思います。

子どもたちの「生きる力」を育みます

平成14年度から実施されてきた学習指導要領では、「生きる力」を育むことを理念としてきました。新しい学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」をより一層育むことを目指します。

学習指導要領の理念－「生きる力」

学習指導要領の理念は「生きる力」、それは、知・徳・体のバランスのとれた力のことで

新しい学習指導要領改訂のポイント

○これからの「知識基盤社会」の時代において「生きる力」を育むという理念はますます重要だと考えられています

○教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定されました

今回の改訂においては、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成

学力の重要な3つの要素を育成します

①基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせます
②知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育みます
③学習に取り組む意欲を養います

「ゆとり」が「詰め込み」かではなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成との両方が大切、それぞれの力をバランスよくのばしていきます。

文部科学省 「すぐにわかる新しい学習指導要領のポイント」より

今井康雄島根県教育委員会教育長の訓辞（平成24年4月2日 小中学校管理職辞令交付式）より

島根の教育の現状を見ますと、少子化の進行に伴う児童・生徒数の減少や学力・体力の問題、不登校やいじめ等、困難な課題を抱える子どもたちの増大等、多くの課題に溢れています。私たちは、このような状況を十分に踏まえて教育に取り組んでいく必要があります。大切なことは、知・徳・体のバランスのとれた人格形成を進めていくことを基本とし、グローバル化の流れの中で世界に視野を広げつつも、自らの地域に誇りを持ち、地域の未来を担うという気概をもった子どもたちを育成することです。(中略)まず、学力向上の取組です。小中学校では、基礎・基本の習得の上で、何よりも自ら学ぶ意欲や力を育ててほしいと思います。そのためには、授業の質を高めることはもとよりですが、社会や働くことに興味・関心をもたせ、「生き方」について考えさせていく、キャリア教育の充実を図っていくことが必要だと思えます。(後略)

第3期しまね学力向上プロジェクト（H24～） めざす子ども像

目標 社会の一員として夢の実現に向かう子ども

☆学力向上対策とキャリア教育の一体化の推進を！！

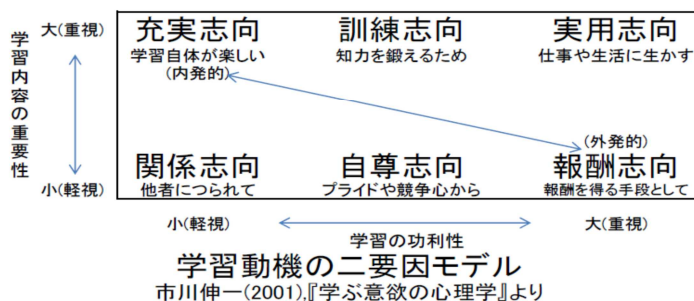
「キャリア教育」と「学習」の

おいしい関係

学校教育スタッフ指導主事 日野原 剛

キャリア教育は「学ぶ意義を学ぶ教育」であり、キャリア教育によって子どもたちの学習意欲が向上し、学力向上につながると言われています。すべての子どもたちが生き生きと意欲をもって学べるようにすることは、私たちの最大の願いではないでしょうか。

本稿ではまず、キャリア教育と学習意欲を高める動機付けについて少し詳しく考えてみたいと思います。中教審の元臨時委員で東京大学教授の市川伸一氏は、子どもへの学習カウンセリングやアンケートを通じて学習動機を6つに分類した下のようなモデルを考案されています。



縦軸は学習内容そのものを重視しているかどうか、横軸は学習による直接的な報酬をどの程度期待しているかどうかを表しており、「学習動機の二要因モデル」と呼んでいます。

キャリア教育は、今学校で学習している内容が日常生活や将来につながっていることを意識させます。これは上のモデルで言えば実用志向の動機付けになります。市川氏は、これまでは内発的か外発的かの単純な軸で語られてきたため、この種類の動機付け(特に長い目で見た時に勉強が何の役に立つか)に対する働きかけが弱かったと指摘しています(※注)。

また、子どもたちの学習の中身(内容や方法)については、縦軸の上の動機付け(内容関与的動機)の方が質の高いものになりやすいと述べています。子どもたちが学習内容そのものの重要性を感じてそれを身につけたいという種類の動機なので、自然と能動的で本当に身になる学習方法になるというわけです。

次に、キャリア教育の取組が先生方の意識に及ぼす影響について考えてみます。基礎的・汎用的能力の育成という視点でキャリア教育の年間指導計画を作成し、自分の担当する教科がそれらのどのような能力の育成に寄与できるかを考えてみると、「課題を自ら見つけること、目的をもって努力すること、友だちと協力しあって考えを深めたり折り合いをつけたりすること、難しい問題に出会った時にどうすればよいか」など、教科の内容そのもののほかにもたくさんのことが指導できることに改めて気付かされます(この認識は指導の改善にも直結するものです)。教科の学習は子どもたちの将来や日常生活に有用であるとともに、「生きる力」の育成の大きな柱になっているということです。このようにして先生方が各教科等の学習の意義を再認識し、勉強が本当に大切なものだと感じられれば、それが隠れたカリキュラムとなって、子どもたちの価値観や学習に対する考え方に及ぼす影響は決して小さくないはずです。

以上のことから、キャリア教育が子どもたちの学習



の一層の充実に資することをご理解いただき、教育委員会と学校、学校同士が連携して計画的・体系的にキャリア教育を進めたいけたらと思います。

(※注) 市川氏は、やる気が出ないときにどうするかが問題なのであり、学び続けるためにはいろいろな動機に多重に支えられていることが重要であると主張しています。



広がっています 島根のふるまい



ふるまい向上コーディネーター
永田 千秋

「ふるまい向上」をしまねの宝に！ と取り組んで今年で三年目になります。島根に受け継がれてきた人情味あふれる温かい人間性と「ふるまい」を大切にしながら、日本人として（人間として）の礎を育むこと。それは、学力向上やコミュニケーション能力を高めることにつながります。また、社会の中で人が幸せに生きるためには、日常のふるまいの在り方がとても大切なものだと考えます。「見てまねて 感じて育つ 島根のふるまい」 — 子どもは、大人から学びまねて、感じて自分のものとして行動します。大人が良い手本となり、子どもたちの健やかな成長と私たち大人の行動を考える機会となればと思います。

今年度、「ふるまい向上指導員派遣事業」が始まりました。これは、15名の指導員が要望に応じて、市町村単位、各保育所（園）・幼稚園単位の職員研修や保護者会等へ出かけて、ふるまい向上に関わる話をするというものです。小学校でも是非、来年度入学する新入生説明会等で話す機会を与えていただきたいと思います。

大人と子どもの伝達力が希薄になっている今こそ、子どもたちの幸せのために、社会全体で取り組み、支えていきましょう。

わが校ふるまい自慢 ポスター完成！

しまねのよさ、すばらしさを県内外へ発信！！

7月21日から11月11日まで「神話博しまね」が開催され、開催中は多くの方が島根県へ来られることとします。そこで、この期間をこれまでのふるまい向上の取組の成果を県内外へ発信する機会ととらえ、「わが校ふるまい自慢」のポスターを県内の公共交通機関、公共施設、神話博しまねの会場等に掲示する予定です。ポスターには小・中学校でのふるまい向上の取組事例と市町村・市町村教育委員会等が特色ある教育の推進をPRする文をつけます。そしてすべてのポスターには県教育委員会からのPR文もつきます。



→これが県教育委員会のPR文です。すべてのポスターに同じものがついているので、紹介するものは切り取ってあります。

☆浜田管内の6市町のポスターを紹介します！！

自立する心、耐える心、礼儀作法、コミュニケーション能力など
人との関わりを大切にすることを育む取組を進めています！
浜田市教育委員会

自立する心、耐える心、礼儀作法、コミュニケーション能力など
人との関わりを大切にすることを育む取組を進めています！
浜田市教育委員会

わが校ふるまい自慢 島根県 大田市 **ふるまい向上** **ふるまい自慢** 島根県 大田市 **ふるまい向上県民運動**

大田市

大田市立川合小学校 | 川合小学校では、地域の高齢者と児童が交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

大田市立第一中学校 | 大田市の第一中学校では、校長、教務主任をはじめ、教員、生徒、保護者、地域のみなさんと共に、大田市のふるまい向上に取り組んでいます。

大田市では、学校と地域との繋がりを大切にしています。地域の人の背中を見てまねて、「ふるまいマスター」を目指します。～大田市は石見銀山学習とおして、ふるまい向上を進めています～ **大田市教育委員会**

大田市の子ども達は、いつでも、どこでも、何度でも「ありがとう」の気持ちを忘れません。～大田市は石見銀山学習とおして、ふるまい向上を進めています～ **大田市教育委員会**

ふるまい自慢 島根県 江津市 **ふるまい向上県民運動**

江津市

江津市立江津若小学校 | 江津市立江津若小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

江津市立江津中学校 | 江津市立江津中学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

江津市立江津東小学校 | 江津市立江津東小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

江津市立青葉中学校 | 江津市立青葉中学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

江津市立江津小学校 | 江津市立江津小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

江津市では、「命を大切にすることの教育の充実」を重点プロジェクトに掲げ、高齢者が積極活動として求める「ふるまい向上プロジェクト」に合わせ、子ども達の尊厳に配慮した「居やん居やん」を小学校の児童に導入し、子ども達の学びを促すことでコミュニティづくりを支援し、思いやり、謙への感謝等を体験し、子ども達の生き力を育むための実践体制の充実を図っています。また、地元産の食材を使い、学校・家庭・地域が一体となって食生活の改善や食育の推進を図っています。 **江津市教育委員会**

わが校ふるまい自慢 島根県 川本町 **ふるまい向上県民運動**

川本町

川本町立川本小学校 | 交通安全教室で、ふるまい向上を促しています。

川本町立川本中学校 | 川本町立川本中学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

川本町では、学校、家庭、地域が一体となってあいさつ運動に力を入れて取り組んでいます。 **川本町教育委員会**

わが校ふるまい自慢 島根県 邑南町 **ふるまい向上県民運動**

邑南町

邑南町立立上小学校 | 邑南町立立上小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

邑南町立立上中学校 | 邑南町立立上中学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

邑南町立立上小学校 | 邑南町立立上小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

邑南町立立上小学校 | 邑南町立立上小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

「子どもも仲間 未来の隣人 みんなで育てよう邑南の宝」 **邑南町教育委員会**

ふるまい自慢 島根県 美郷町 **ふるまい向上県民運動**

美郷町

美郷町立美郷小学校 | 美郷町立美郷小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

美郷町立美郷中学校 | 美郷町立美郷中学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

美郷町立大和小学校 | 美郷町立大和小学校は、地域の子どもたちと高齢者を交流する「はらたの輪」を開催し、中心を通り、交流を促しています。

地域とともに歩む美郷町、礼節を重んじ心豊かな子どもを育てる取り組みをしています **美郷町教育委員会**

平成24年度
ふるまい向上
指導員派遣事業

ふるまい向上プロジェクトの一環として、乳幼児とその保護者のふるまい向上に関わる支援をする「ふるまい向上指導員」を派遣します。指導員は幼稚園、保育所等の要望に応じて職員研修や保護者会で話をします。入学説明会等での説明を希望される小学校は、浜田教育事務所までご連絡ください。永田ふるまい向上コーディネーターが対応します。

平成24年度第1回
ふるまい向上推進県民運動
浜田地区協議会

7月31日に開催する予定です。
浜田地区協議会とは…

浜田地区において、島根県ふるまい向上プロジェクト事業の円滑な実施と「ふるまい向上」の県民運動化の推進を図るために、各市町が主体となって、それぞれの特色を生かしたふるまい向上に向けた取組を検討することを目的とした会です。

夏休みに向けて

学校教育スタッフ生徒指導専任主事
伊津 洋士

平成24年度の1学期も終盤にさしかかりました。各小中学校では学習のまとめをしたり、夏休みに向けての取組を検討したりしておられることと思います。子どもたちの間からも夏休みの話題がちらほら出始める頃ではないでしょうか。

さて、この1学期の各学校での生徒指導上の成果や課題、特に不登校及び不登校傾向の児童生徒の問題について考えてみたいと思います。不登校は、県全体をあげて取り組んでいかななくてはならない大きな課題です。平成23年度の各学校からの報告書を見ますと、浜田教育事務所管内の小中学校でも中学校でも、個に応じた丁寧な対応が見られます。そして、その取組によって不登校の状態が改善した児童生徒がおり、着実な成果が見られます。

しかし、管内の小中学校ともに、不登校児童生徒数は一昨年度よりも増加しています。各校で取り組んでいる不登校対策ですが、さらに検討を重ねていく必要があります。小6→中1→中2→中3と、学年を追って児童生徒の不登校数を見ていきますと、学年が上がるにつれ、徐々に増加していく傾向が見られます。しかし、学年が変わった1学期の報告を見ると不登校児童生徒数は前年度の3学期よりも減少し、そしてその年度の終わりには、また前年度と同じかそれを上回る数になる傾向が見られます。

これは、新しい学年や進学に向けての児童生徒の意欲の表れであると思います。さらに学校の取組として前担任や新担任の連携、小中学校の連携、

学校の組織的な対応などが登校意欲につながっているに違いありません。また、学校行事や部活動などの大きな節目をきっかけに変わろうとする児童生徒もいることでしょう。この1学期に不登校の状態を改善した児童生徒、夏休みを区切りとして登校できそうな児童生徒が学校に存在しているのではないのでしょうか。不登校の児童生徒の状態や環境などの原因は多様化していますので、その都度、見極め、判断し、対応していくことが必要となります。どのような対応が最適であるのかは難しい判断となり、学校・家庭・地域・関係機関などが連携を図りながら取り組んでいく必要があります。

1学期の残りの日々や夏休みは、不登校状態改善に向けて大きく変化したり、良い状態を継続したりするための大切な時期です。現在、不登校状態にある児童生徒にとって充実した夏休みとなるよう、各学校で対応策を練っていただけたらと思います。

子どもたちのために、わたしたち大人がチームを組んで前向きに取り組んでいくことが大切です。「子どもも大人も、みんなが笑顔いっぱいの2学期にするための夏休み」となるように、明るく元気に過ごしていきましょう。

チーム
ワーク！



☆第2回島根県神話絵画コンクール（締切：9月14日〈金〉）

☆しまね数リニック（締切：9月10日〈月〉）

☆しまね調べ学習プレゼンテーションコンテスト（締切：10月31日〈水〉）

たくさんのご応募・ご参加を

お待ちしております！